

第223号

## まちのくすりやさん

今回のねはなし

「ピル、誤解なく活用を」

「献血で救える命がある」



## ピル、誤解なく活用を

## 月経症状やわらげる選択肢に

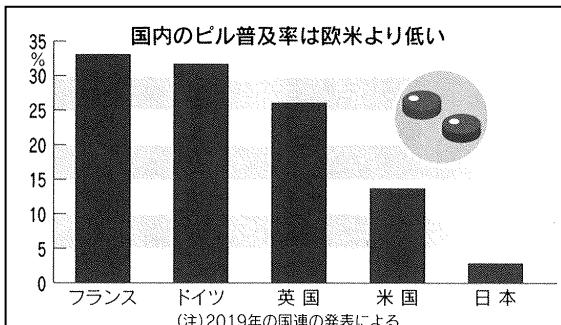
生理痛に悩みながら相談をためらう女性は少なくありません。痛みを緩和する低用量ピルは、服用する側の知識も不足しがちで、欧米に比べて浸透していません。オンライン診療で処方する仕組みも出てきており、正しく服用すれば月経前症候群（PMS）などに伴う体調不良も和らげる

選択肢となります。低用量ピルは、含まれるホルモン量を少なくすることで副作用を減らし、より安全に毎日服用できるように開発された薬です。望まない妊娠を防ぐための性交後（アフターピル）とは異なります。低用量ピルの価格は種類によって異りますが、1か月分で3000円程度。月経困難症など向けの薬剤のタイプ（LEP）は、医師の診断を受けて治療目的で処方される場合は保険適用になり、費用は診察費を含めて原則3割負担で済みます。厚労省は、オンライン診療でも保険適用となると説明しています。

医療スタートアップのファストドクター（東京渋谷）は2023年9月から女性特有の症状のためのオンライン診療「婦人科オンライン」を開始しました。保険適用で、診察を受けやすいように午後6時～午後10時の間で365日対応しています。

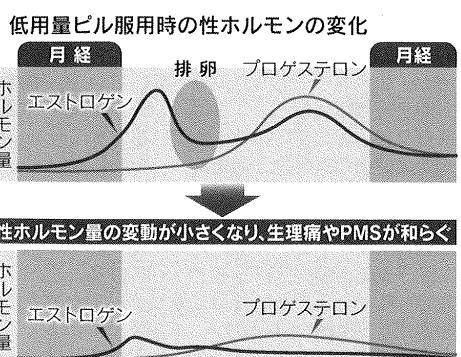
オンライン診療では、生理痛と似たような症状である子宮内膜症などの深刻な病気を見つけることは難しいです。国連によると、女性（15～49歳）の低用量を含むピル全体の服用率は、独仏が30%を超えるのに対し、日本は2.9%、先進国平均16.5%を大幅に下回ります。

低用量ピルは、避妊効果もあり、「将来的に妊娠できなくなる」との誤解もあります。服用をやめれば排卵が再開します。体調不良を和らげる選択肢になる低用量ピルについて、正確な知識を得てほしいです。



## 低用量ピル服用を巡る疑問点

- 将来妊娠できなくなるのでは
  - 服用をやめれば、排卵が再開する。影響はない
  - 飲み始めのむくみが心配
  - 3割程度の人に出るが、数日～3カ月程度でおさまる
  - 血栓症のリスクが高まるのでは
  - 1万人に3～9人が発症。服用しない人より僅かに多い程度
  - 太るのでは
  - 体重増加との因果関係はない
- （注）専門家への取材に基づく



# 献血で救える命がある

## Q: 受けられる年齢は?

A: 16 歳～69 歳 (65 歳以上は、60～64 歳に献血した人)

## Q: 種類は?

A: 全血 血液中のすべての成分を採血

200ml 16～69 歳

400ml 男性 17～69 歳、女性 18～69 歳

成分 血液中の血小板や血しょうだけを採血

血しょう 18～69 歳

血小板 男性 18～69 歳、女性 18～54 歳

## Q: 献血の流れは?

A: 受付、問診票、体重測定



問診、血圧・脈拍測定、体重測定



ヘモグロビン濃度測定、血液型事前検査



採血 (全血は 10～15 分程度、成分は 40～90 分程度)



休憩 (少なくとも 10 分以上、水分補給も)



花粉症の季節になりました。

ウェザーニューズは、2026 年春の「第二回花粉飛散予想」を発表しました。

2026 年は、2 月上旬に東海や九州北部からスギ花粉の飛散が始まる見込みです。本格的な飛散は、スギ花粉が 2 月中旬から、ヒノキ花粉は 3 月中旬からの予想です。

飛散量は、ほぼ全国的に平年を上回る見通しです。また、飛散開始の時期は過去 10 年の平均と比べて、平年並か平年より早くなるとみています。

## (一社) 浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実 1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月～金: 10～15 時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku\_ura\_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>